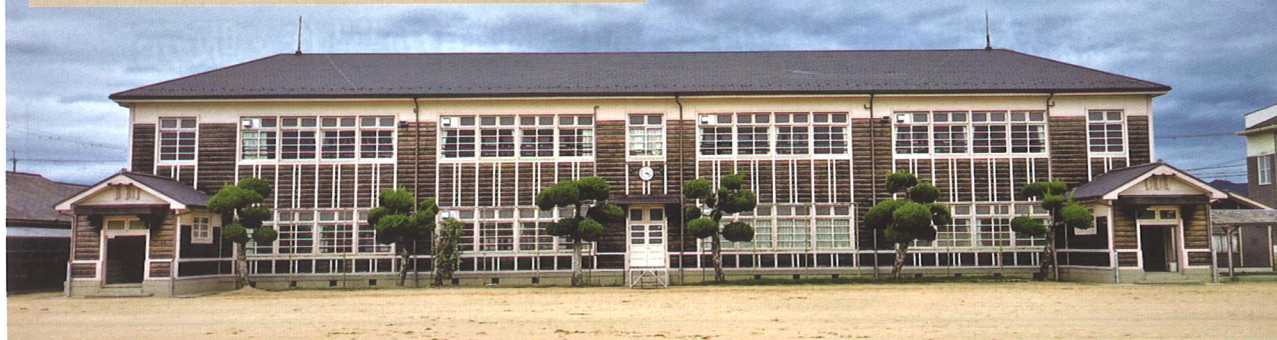


# ひょうごの木の物語

第2回 県内最古級の現役木造小学校  
わかみ  
 (丹波篠山市立八上小学校)



**概要** 丹波篠山市立八上小学校は、1937年（昭和12年）に建築されて以来85年、現在も当時の姿のままで使われている。学校創立は1873年（明治6年）と来年で創立150年を迎える伝統校で児童数は93人である。

市街から2キロほど南東にある洋風で瀟洒な校舎は、周りの田畑や民家と溶け込み独特のまちなみ景観を呈している。平成26年度には、兵庫県から景観形成重要建造物に指定された。

1988年（昭和63年）から3年間、大規模改修が行われ、2012年（平成24年）に震度7に耐え得る耐震補強と大規模改修が行われた。工事にあたり、85年前の姿を残すよう配慮された。しかし、柱・梁など骨組み以外は造り替えられ、木材は、地元丹波篠山材をはじめ、すべて県産木材が使用された。



天井の高い広々とした教室



85年前のままの階段

## 特徴

(1) 校舎の外観は、昭和12年建設当時の姿のままで、「大事なことは、今も使い続けていること」であり、今後も大切に使い続けられること」と小田環校長は言う。

(2) 地域住民にとって、木造校舎は三世代にわたって、学び、遊び、親しまれたもので、地域のシンボルとして認知され、改修工事を重ねる度にも、「建て替え」の声は出なかったという。

(3) 耐震工事にあたり、大規模木造校舎での耐震

補強事例がないため、「E-ディフェンス」での実験データ等を活用して、耐震補強方法が検討され、県下の木造校舎保存活用のモデルとなっている。



美しく光る廊下



地元ヒノキ製学習机



校舎表玄関

## 木育の取り組み

(1) 丹波篠山市は木育に力を入れている。市内14小学校には、全児童に丹波篠山産ヒノキの学習机・イスが配付され、6年間使用後、天板を記念に持ち帰り、机自体は次の1年生にリユースすると市教委学事課の山本毅課長は言う。

児童による「木造校舎」の作文から、珠玉の言葉を紹介します  
 ・わたしの一番の誇りが85年も使っている木造校舎、大人になっても残していきたい。地域の人にとっても大切な校舎です。  
 ・お母さん、おじいちゃんも使っていた。全然形も変わっていない。  
 ・これまで使っていた人が大切に使っていた、すごきれいな学校。

(2) 児童、住民、教職員によって作られた「校舎のうた」（平成24年作）があり、いつも音楽の時間に校歌とともに歌われている。

小田校長は、普段から子どもたちがつい口ずさむほどに親しまれていると言う。

校舎のうた  
 一 明るく元気な 声あふれ  
 友だちみんな 仲がいい  
 笑顔がやかく 八上子  
 友だちいばい たのしいな  
 長い歴史の 木造校舎  
 おじいちゃんも 歩いた廊下  
 前の姿を よみがえる  
 木の響り 木のぬくもり  
 校舎に在ると やさしくなれるよ  
 二  
 八上のシンボル 高層よ  
 歴史の重さと 豊かな自然  
 笑顔で あいさつかわす  
 地域の人たち 温かい  
 長い歴史の 木造校舎  
 おばあちゃんも 学んだへや  
 今 あざやかに よみがえる  
 同じ窓 変わらぬドア  
 校舎を見るとき みんなに会えるよ

(「ひょうごの木の物語」取材チーム 菅原 健)